

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第145号

令和4年6月14日

発行=四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

電通大社会プロジェクト実習、第6弾スタート！

## 48名の学生による正行ゲーム&グッズの制作

大阪電気通信大学・木子&由良教室との社会プロジェクト実習、市民・自治体・大学の産官学連携事業の第6弾、ゲーム&グッズ制作『遊んで学ぶ「武将・楠正行」』が始まりました。

今年も、昨年度の市民ゲーム大会・アンケート結果、「非常に楽しかった。」「非常に役に立った。」「来年は絶対来たい。」など強い期待・要望を受けて、楠正行の生涯を網羅する史跡、実績、資料等をゲームやグッズなどで表現してもらいます。今まで同様、四條畷市・四條畷市教育委員会の後援を得て、四條畷楠正行の会がクライアントとなって大阪電気通信大学の学生48名によってプロジェクトが進みます。12月4日(日)の市民ゲーム大会を目指して、授業がスタートしました。乞う、ご期待ください。

### 4/27 第1回講義

4月27日(水)、大阪電気通信大学四條畷学舎で、四條畷楠正行の会による第1回講義が行われました。

この日は初めての対面授業とあって、冒頭、出席した扇谷、国府、土井、山添の4人と学生の皆さんとの対面式が行われた後、扇谷による講義「楠正行の人間像を繙く」を行いました。

講義は、パワーポイントで制作したデータを正面スク

リーンに映し出しながら、「正行が生きた時代背景」「正行のプロフィール」「正行の人間像」「正行の事績」「正行の人間像」「四條畷の戦い」を、写真やイラストを使い行いました。



また、当日、先輩たちの成果品として、「くすのきまさつらかるた」や「正行ゲーム」等を持ち込み、披露もしました。

学生から提出されました感想文の一部を紹介します。

☒ 話し方に抑揚があって楠正行についての内容が入ってきやすいし、また調べてみようと思えた。一番印象に残っているのが、父が死んだ後すぐに、後を追うように腹を切ろうとしたり、そしてそれを止める母に感動した。

☒ 楠正行の生き方が素晴らしく、尊敬できる人柄だなと特に思いました。溺れている敵兵を助けたり、自分の仕える天皇への変わらない忠誠心など、まさに正義の心を感じました。

☒ 楠正行について全く知らない状態だったが、歴史に少しでも触れて関心が深まった。特に川で

溺れた敵兵を助けたというエピソードは、慈悲を通り越して異常だと感じるほどの話であった。楠正行は武士としての誇りを持っており、それは敵であっても同じく一つの尊敬を持って戦っていたのだらうと様々な話を聞いて思っ

た。

＊ 歴史に関して全くの無知であるせいか、楠正行について全く知らなかったが、今回の講義を聞いて、1個人に焦点を当てて歴史の深掘りをするところまで詳しい内容になるのか、と感じた。

＊ 今回の講義を聞いていて、クライアントの活動に対する熱意や、楠正行への尊敬の念をととても多く感じ取ることができた。この思いにしっかりと答えられるようなものを作りたいと考えた。

＊ 個人的に心に残ったお話は“博愛心に溢れ、溺れる敵兵を救った話”“達筆であった故に年齢がわからなくなる話”“銅像が刀などの武具ではなく筆を持っていた話”の3つが印象に残りました。武将という印象からは大きく違うイメージへと変わりました。

### 5/11 第2回講義

第2回講義は、5月11日に行われ、正行かたるの絵札を使った「楠正行の生涯」と、如意輪寺等発行の絵葉書を使った「太平記で読む楠正行絵物語」の二本立て映像スクリーン紙芝居を上演しました。

2回目の講義＝紙芝居の感想分の一部を紹介します。

＊ 今回の講義の暇楠正行の会による講義では、様々な正行のエピソードや逸話を元にした読み物を聞くことができ、いっそう制作のアイデアを膨らませることが出来た。前半で見たカルタのように作ってある読み物がとても印象に残っており、あのような一味違っている人々に楠正行に興味を持ってもらえるような作品制作にしていきたいと思った。

＊ 実際にかたるの絵を見ながら、正行の歴史を辿っていくと、絵があることでまるでタイムスリップして正行の人生を見ているかのような気分になり、鮮明に記憶に残った。どちらの作品も、特に戦いをしている時の絵が凄く臨場感があって、戦いの激しさが感じられた。僕は正行の戦いを実際に動くゲームにして、より臨場感が感じられるように仕上げたいと思う

＊ 代表者の楠木正行に対する情熱と前任者の製作者としてのプライドを感じ入りました。私も彼らに見合うような最良の結果を叩き出してみたいと思います。

＊ 今回の講義はさまざまな絵がついていたから、前回とは違って場面のイメージが付きやすかったです。太平記には正行だけでなく、父の正成の話も載っていたことが興味深かったです。太平記の本を買おうと思いました。

＊ 今回はかたるなどと言った、イラストがある中でのス

トーリーの紹介だったから状況などがイメージしやすく分かりやすかったです。授業の始めから話をしてくださった話から、以前よりも楠正行について多くのことを知ることができました。初めて聞く話ばかりで、難しい部分もありましたが、今度は自分達が伝えないといけないのでこの話を理解し、その他の知識も積極的に取り入れていかないといけないと感じました。

＊ 私は前回のクライアントの説明を受けていないため楠正行のことを資料でしか知らなかったが今回の紙芝居型の話を聞き、楠正行のことをこんなにも熱心に伝えていこうとされている方々の力になれるように頑張りたいと思いました。

＊ 今回の話を聞いて、四條畷楠正行の会のみなさんが、太平記の内容を分かりやすく楠正行らの生涯についてまとめられていて脱帽した。また、かたるについて、幅広い層に聞いてもらえるような工夫がされていてよかった。

＊ 紙芝居というには場面が動かず、文章のみでの解説が多く小説の読み聞かせを聞いているような感覚になりました。古語が用いられていることも相まって読解するには難易度が些か高かったです。楠木正行の生涯を知る参考資料としてはとても良かったです。ありがとうございました。

### 5/14 学外実地調査

2回の講義を受け、5月14日(土)、学外実地調査として

四條畷市内の楠正行ゆかりの地を歩きました。

この日、JR四條畷駅東口に集合した学生48名は、4班に分かれ、1班は扇谷のガイドで15名、2班は土井さんのガイドで11名、3班は木村さんのガイドで10名、そして4班は国府さんのガイドで12名が、順次スタートしました。

コースは、四條畷駅から、正行最期の地となったハラキリ字地の残る大東市津の辺、南野の大鳥居を見ながら四條畷神社へ、そして和田賢秀墓、2か所の古戦田字地(四條畷保健所前の中野地区・四條畷高校から小楠公墓に掛けて雁屋

地区)、最後に小楠公墓所に向かいました。

各学生は、配布した現地学習資料を手に、熱心に説明を聞いていました。

さあ、これから班に分かれてテーマの設定から、いったいどのようなゲームやグッズを作るか授業に入っていきます。皆さん、乞う、ご期待ください。(写真 1面 4/27 授業風景 2面 5/14 現地学習で説明を聞く学生たち)

(文責：四條畷楠正行の会代表 扇谷昭)

